

荒鷺

第三十二号 荒鷺

福岡大学学術文化部会書道部

☆巻頭詩☆

愛 燦々とその身に降って

心ひそかな嬉し涙を流したりして

人はかわいい かわいいものですね

ああ過去たちは優しくまつ毛に憩う

人生って 不思議なものですね

ああ未来たちは人待ち顔して微笑む

人生って嬉しいものですね

美空ひばり（愛燦燦）より

目次

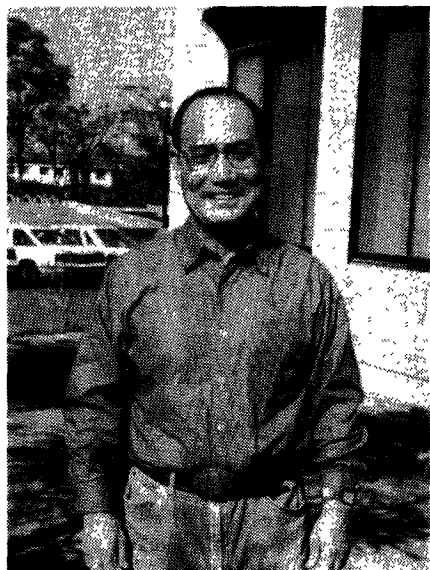
基本方針	1
紹介	2
荒鷲発刊に寄せて	2
特別寄稿	
第三十一代幹事	2
時代について	3
書道部部长	3
教養と一般常識	4
書心会会長	4
無題	4
学術文化部会幹事長	4
求め方	5
書道部講師	5
赤木 石掃	5
運営委員長を体験してみて	6
福岡学生書道連盟運営委員長	6
宗 義幸	6
年間行事	
クリスマスパーティー	7
山下 泰史	7
追い出しコンパ	7
原口 磨美	7
市展合宿に参加して	8
立石 成美	8
春季合宿	8
福島 幸治	8
新入生勧誘週間	9
島 幸輝	9
新入生歓迎会	10
高良 俊彦	10
学内展	10
小田 桂子	10
県展合宿	11
牧 利弥	11
夏季合宿	11
大倉 隆雄	11
七限祭を終えて	12
脇田 昇英	12
第三十一回西日本高等学校揮毫大会	14
一年間を振り返って	14
服部 大介	14

★みんなのひとりごと	15		
★書道道具研究	1		
自由投稿			
通学	1年	野口 益記	25
車中心の生活	2年	佐々木智子	25
連盟の三回生及び短大卒業生			
レディースコンパ	3年	平田 光子	26
無題	4年	磯本 孝洋	27
書道部	1年	河野 綾子	27
私の友達	2年	坂井 喜久代	28
ある日思ったこと	3年	渡辺 太郎	28
What color is character?	4年	泉 直美	29
カノッサの屈辱編			
現在福岡大学に在籍しているわけ、			
を、自分なりに考えた文	1年	工藤 大行	30
Le petit chaperon rouge	2年	細川 文子	30
今思っていること・秋の夜長編	4年	森 裕之	31
無題	1年	松元 恵美	32
無題	4年	江川 美和子	32
願いが叶うとしたら	1年	安武 淳	33
どう思う	3年	中村 博	34
銃瘡の彼方に	4年	上村 俊英	34

第三十一代基本方針

書道愛好者の団体である我々書道部は、これまで築き上げられた良き伝統を改めて見直し、自主的・意欲的に練習・行事及び一般諸活動に取り組むことで書技の向上、部員相互の親睦融和を図る。又、対外的にもアピールしていくことによってサークルを活気あふれるものとし、人間形成の場としていく。

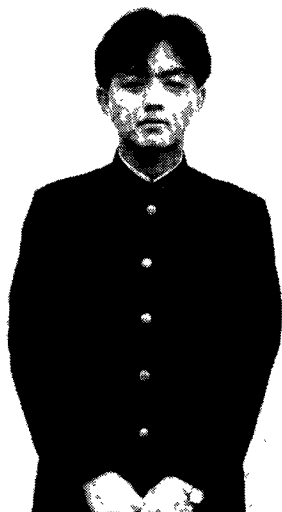
福岡大学学術文化部会書道部



講師 赤木 石掃



部長 小西 高弘



幹事 安永 格



会長 柴田 一夫

「荒鷲」発刊に寄せて

第三十一代幹事 安永 格

この度、我が部の機関誌「荒鷲」が発刊できますことは部員一同にとって誠に意義深いことでもあります。

書道部は、昭和三十五年創部以来、著しい発展を遂げ現在に至っています。この良き伝統の継承を行うと共に、部の存在意義を踏まえた上での現代に即した発展を図ることが使命です。

我々三十一代書道部は、その活動を理解して頂く為にここに「荒鷲」を発刊し、幅広い利用を切望するものがあります。

最後になりましたが、発行に際し、多大なる御尽力を頂きました関係者各位に厚く御礼申し上げます。発刊の言葉と致します。

特別寄稿

「時代について」

書道部部长 小西 高弘

子曰、学而不思則罔、思而不学則殆。

(論語、爰政第二)

子曰はく、学んで思はざれば罔し。思つて学ばざれば殆うし。

(宮崎市定訳)

The master said, 'If one learns from others but does not think, one will be bewildered. If, on the other hand, one thinks but does not learn from others, one will be in peril.'

(D. C. Lau訳)

「人様からお習いしただけで、それを自分の身に引き比べて充分考えないと、習ったことが本当の我が物になりませんから、やはり物の道理にも罔く、訳がわからぬようになりましょう。ところが、自分一人で一所懸命考えて、先人の学問を学ばないと独断に陥るから、則ち殆しとあります。何でも習ったこ

とは相当練習し自分で会得するまでやらぬと物にはならないものです。」

(宇野哲人氏解説)

論語の原文と和訳と英訳を併記したのはそれなりの理由からである。戦後の世界秩序は崩壊し、新しい世界秩序への模索の時代が始まった。従来の考えでは対応できない時代が始まったのである。日本の近代は「脱亜入欧」という方法で欧米の学術を懸命に移入することに努めた。その過程でアジアを植民地化する失策や戦争も行ってきた。第二次世界大戦後、米國を始めとする自由世界陣営のもとで、日本の経済は「奇跡」といわれる発展をし、「経済大国」とよばれる今日を築いた。

しかし、アジアに目が向けられ始めたのは近年にすぎない。中にはその反動として「脱歐入亜」に短絡する危険がある。そうあつてはならないという思いをこめて敢えて併記した次第である。

国際化とは世界に貢献するのみならず、絶えず世界から学び続けねばならないと思う。いわゆる「共生」の考え方である。

「教養と一般常識」

書心会会長 柴田 一夫

始めに、昨年の部創立三十周年記念諸行事に関して関係各位の絶大な御支援、御協力に対し厚く御礼申し上げますと共に今後とも御指導、御教示を賜わりますようお願い申し上げます。

さて、私が常々お話ししている事に大学に入学したならば、必ずサークルに入りなさいと言っておりません。古代から年配者が口癖で「今の若い者は」云う言葉があります。これはいつの時代でも年長者が若人を自分の型にはめ、自分の思うがままにコントロールしようとする他にないからと考えておりました。しかしながら、すべてが悪い事ばかりではないと私は今の年齢になって少し分かるような気がいたします。大学を卒業して社会人となるわけですが、社会人には社会の決まり事、会社の慣例、家庭人となれば、その家庭個々の慣習があるものです。このような決まり事、慣例、慣習は専門で教える学校、科目はありません。本来ならば、学校の先輩、会社の上司、家庭では祖父母や父母から教わるものですが、最近の若人の交際範囲はきわめて狭く、学校の同級生それも少人数グループで同じような環境、同じような趣味の人としか付き合いがなく同じ話題で終始しています。では家庭ではどうかと云えば、又これが核家族でその上親子（特に父親）との会話が

皆無であり、先に述べましたように常識、慣例、慣習はいったい何処で教われれば良いか考えさせられます。現実の問題として、このような不都合が散見され今社会問題として静かに進行しています。では実際どのような問題があるかと思われるでしょうが、身近な事例として①挨拶の仕方（目上と同輩とは必然的に異なる）②席の順序③言葉使い④交通マナー⑤集団の中に於ける立ち振舞いと列記すれば限りがない程です。

福大卒業生はさすが社会人としてのマナーをわきまえていると評価されるには書道部のようなすばらしい部で高い教養と常識を身につけることが早道だと私は信じております。四年間サークルを通していろんな事を学んだ書道部の人は社会へ自信を持って羽ばたき飛躍されることを疑う余地はありません。

「無題」

学術文化部会 常任幹事会幹事長 佐藤 慎介

今回、書道部の方からこの原稿を依頼されたわけだが、何を書いて良いのかよく分からないので、とりあえずこの四年間で感じた雑感のようなものを述べさせていだきたいと思う。私がこの福岡大学に入学して四年の月日が流れようとしている。わずか四年という短い期間ではあるが、その中で学んでき

たことというのは計り知れないものがある。中でも特に強く感じることは『一所懸命』という言葉である。単純で、誰でも知っている言葉であるが、この言葉を実践していくことは難しいのではないだろうか。現代の学生（私もその一人であるが）をみてみると、何を目標にして日々を過ごしているのか、大學生生活の四年間という限られた期間の中でなりたいのかよくわからない人が多く見受けられる。そして、そういう人々と話してみると「面白くない」という言葉がよく聞かれる。しかし、自分が置かれている状況、組織を有意義なものにするのも、無意味なものにするのも自分の考え方一つでどうとも変わっていくものである。対象は何でも構わない、サークル、勉強、アルバイト、恋愛、日々の暮らしの中で起こる数多くの事象に対して、例えばそれがどんなものであるとも『一所懸命』思考し、行動していくことによってこそ意味のあるものとなり、例えどんな結果に終わったとしても良い思い出を心の中に残すはずである。

私は間もなく、サークル、学術文化部会から離れていく身であるが、書道部の皆さんはさらに良い書道部、学術文化部会を作るために『一所懸命』頑張ってお下されると確信しています。

最後に、この荒鷲を企画・編集・発行するにあたり、書道部員並びに関係者各位に深く敬意を表わすとともに乱筆、乱文をお詫びして、筆を置かせて

いただきます。

「求め方」

書道部講師 赤木 石掃

元禄六年、南山大師という偉い人が「柴門の辞」に引用した言葉があります。それは、芭蕉が門人の許六に与えたものです。

「古人の趾をもとめず。古人の求めたる所を求めよ」この言葉は俳句の世界にのみ必要な言葉ではありません。現在を生きる者すべての者が必要な言葉ではないでしょうか。

書も形だけを求めるのではなく、その心を求めてみるのも大切なことです。書は心だというわけで、「お化け」のような字を書いて楽しんでる一人よがりの人もいます。それでは何が真理か。それは古典です。古典は新しいのです。未来百年も千年も、生き続け得るものが古典として残っています。その心を引き継いで、自分を育てることです。物まねは「求めたる所を求める人」ではなく、趾を求めたにすぎないのです。頑張りましょう。

「運営委員長を体験してみて」

福岡学生書道連盟 運営委員長

九州大学 四年 宗 義幸

今回、福岡大学の機関誌であります「荒鷲」が発行されたことを心よりお祝いたします。

遅れましたが、自分は第三十一期福岡学生書道連盟の運営委員長をやらせて頂いています九州大学四年の宗義幸です。

早速ですが、福岡大学の先輩方に現在の福書連の状況を御報告したいと思います。

現在、加盟大学は十一大学、それに、福岡女学院大学が仮加盟という形で参加しています。また、福書連の目標に書技向上と親睦融和がありますが、今は、親睦の方に力が入っているように思われます。時代の流れといえればそれまでですが、錬成会を例にとってみても自分が初めて参加した頃は思い出と言えれば暑い中での練習と愛情飯しかありませんでした。二年の時は事務局として参加し、いささか練習が減り、一年の時程の印象はありません。三年の時もそうでした。今度の錬成会でもパンフレットのスケジュールの中でも練習はそれ程ありません。

しかし、自分が一年間、運営委員長を体験してみても練習、親睦という以前に一番大切なのは「活気」だと思ふようになりました。就任当初は「はじめ」という言葉に固執していました。「はじめ」も重要

ですが、やはり「活気」なくしては「はじめ」は生まれ来ないと思ひます。ですけど、いくら「活気」が出てきてもそれから何もなくては意味がありません。せっかく、福書連に活気が出てきても、各大学に持ち帰って、役に立たなければ何も意味はないのです。現在、やはり、その事が一番心配であります。今後の福書連、また各大学の発展はここにあると自分は思ひます。

最後になりましたが、これからも福岡大学OBの諸先輩方の御活躍を期待しております。

年間行事

クリスマスパーティー

三年 山下 泰史

クリスマスパーティー（このさきはクリパとする）は、書道部の年間の一番最後に行うイベントであるいは忘年会のようなものである。

ここで忘年会的なこのイベントがクリパとかいうかっこつけた名前ではばれているのかというと、な・な・なんとホテルで立食パーティーを行うのである。ホテルのような所での食事なんて貧乏人（そうでない人はゴメン）の集まりである私たちにとっても珍しいものである。会費も当然、四千元と高い。しかしここで当時企画をしていた私は皆に聞いて欲しいのだが、元来四千元というのはとてつもなく安いのである。元々ホテルでの立食パーティーは最低でも六千元からである。これを二千元も下げるのであるから、大変である。料理、飲物、クリパ恒例のケーキなどを考えて金額の調整をしないといけない。会計の牧と色々なパターンを作って、計算したり、ホテル側の人に無理をいってようやく四千元にすることが出来たのである。だから、出てくる料理を見て不平をいう人がいるが、それはがまんしてもらいたい。裏では大変なのだから。

まあ金のことはそのぐらいいにして肝心の中身だが、まあ

始めてということでも色々苦労はあったがとくに準備などは前日は徹夜で、そして当日の昼までかかって終わるといってギリギリのものだった。まあ、しかしがんばったかいがあって凝った演出効果（音響や照明）も決まったしゲームのスーパーウルトラクイズや似顔絵クイズもうまくいき、全体的にも何も無くスムーズに終わった。ハプニングといえば、福島が、突然前で歌い始めたことぐらいだった。

自分という人間が自分のやったことに人間なのでクリパはともよかったと思う。本当はどうだったかは参加した人が自分で思いだして下さい。けど、この場は一応ががんばって企画した自分に免じて今年のクリパは「最高によかった」ということにさせて下さい・・・。

追い出しコンパ

四年 原口 磨美

今年も恒例の追い出しコンパが行われました。昼と夜の二部ありましたが、私は昼の部にはいけなかったので様子は分かりませんが、油山でのハイキングだったそうです。夜の部―場所は高砂。今年はずくさんのOBの先輩方が来られたので、とても盛り上がり、そして楽しい時間を過ごすことができました。私たち、今の四回生にとっては、この代の先輩方に一番お世話になりました。七隈祭や合宿・・・など。どれをとっても、とても思い出深いものばかり

りです。特に、わたちが一回生のときには分からないことばかりで、先輩方には大変ご迷惑をおかけしたことと思います。

あの追い出しコンパからもうすぐ一年が経とうとしています。先輩、お元気ですか？会社には慣れましたか？

今書いている所が書いている所なので・・・（七隈祭の打ち上げの場所）この辺で。

またゆっくりお会いしたいですね。

市展合宿に参加して

三年 立石 成美

平成三年二月七日から九日まで油山の正覚寺で市展合宿が行われた。

私は大学生になっていろんな合宿に参加したが、市展合宿―市展に作品を出すために自由参加の合宿というのは初めてだったので、不安だった。しかし、二泊三日という短い期間で作品を作り上げなければいけなかったため、不安が焦りへと変わっていきましました。こうやって私にとっての市展合宿が始まった。

市展合宿の前の強化練習期間中、充分まではいかないが自分なりに頑張って書いたと思っていたが合宿では思ったように書けず、時間だけが過ぎ夜になった。一晩中書き続けるつもりでいたが、睡魔にはかなわなかった。

二日目、ただただ書き続けるだけ・・・。

三日目、作品が仕上がった。自分ではとっても気に入っていたが赤木先生は、「B」と一言。別の作品を出すことになった。

この合宿を振り返り思い出すことは、毎食食べたお弁当と作品を作るためにみんな一生懸命で緊張感に満ちていたことです。本当に二泊三日、充実した合宿でした。

春季合宿

三年 福島 幸治

四月五日から八日までの四日間、我々は英彦山青年の家において、春季合宿を行った。

僕は、前から緊張して合宿所に向かっていた。というのも、今回僕は班長をすることになり、しかも、班長をするのは初めてなのである。普段の行動では、班員のみんなをまとめていき、討論となると、一人一人の考えや意見をうまく引き出してやり、「討論」しなければならぬ。はたしてうまくいくだろうか、僕は不安でいっぱいだった。

しかし、そんな僕の不安をよそに、同輩は、「気合よ、気合。」と、素晴らしいアドバイスをしてくれる。全く良い同輩である。

色々と考えているうちに、バスは英彦山青年の家に到着した。建物を見たとき僕は、色々考えても仕方がない、とにかく全力投球だ！と、心で叫んだ。要は気合なのである。さてオリエンテーションや班別の勉強会も終わったあと

は、いよいよ討論である。

僕は、「ようし、初めに決めて波に乗るぞ。」と、意気込んで議長を始めた。

しかしである。現実には厳しく、予想とは裏腹になかなか話は進まない。気は焦りなんとかしようとするが、余計に深みにはまってしまふ、と、散散たる初日であった。

二日目も思うように話が進まず、すっかり意気消沈してしまつた。それを補うかのようにレクレーションでは狂つたように楽しんだ。

さて討論会も三日目ぐらいから大分活発になつてきた。初めおとなしかつたKちゃんも2、3回生の意見に、「でもそれは違うんじゃないんですか。」と、反対意見を出すようになり、「お、これはいいぞ。」と、思ったものつかの間、あつという間に討論会も終わつてしまつた。

合宿としては、決して満足のいくものではなかつたが、僕にとつては、色々と考えさせられること、勉強になつたことも、その他のことも含めて、とても実りの多いものだった。よし今度は頑張るぞ、と、打ち上げでペロペロになつた僕は、心に決めるのだった。

新入生勧誘週間

一年 島 幸輝

高校のとき、ただひたすら勉強していた僕は、大学に入つたら、いろんな事をやってみようと思つていました。もちろん、サークルに入ることもその一つでした。福大に入りたてのとき、柳高の友達と全然会えず、孤独だった自分は、ある日、同郷のN君と出会い、大学内を一緒にぐるぐるまわつておりました。道路わきに机がたくさんならび、人通りが多く、どの部も競いあつて必死に新入生に「一回生の方ですか。ちよつとお話だけでも聞いていかれませんか。」なんて風に言い続けておりました。幾つかのサークルの話しを聞いたが、どれもいまい好きになれないものばかりで、退屈そう、暇そう、遊びばかりしそうで、部員数が少なそうで、仮入部契約だけして、「もう来んけんな。」とばかり、心の中で言いつづけていた。歩いていろうちに、書道部に目が止まり、話しだけ聞きに行つた。その時見覚えた方は、成美さん、亀元さん、中村さん(男)格さん、ぐらいだったと思います。仮契約をし、N君と話し合つた結果、見事書道部に入部しました。第一食堂の下へ行き、入部させて下さいと申したところ、すぐさま歓声が起こり、三本じめをしていただき、ちつと照れくさかつたが、悪い気はしなかつた。もうその場に森山と山本と河野が確かいたな。今では毎日みんなと和気あいあいと過ごせるこの部に入つて幸せだな、とは思つていませんが、よかつたとは思つています。

おわり

新入生歓迎会

一年 高良 俊彦

五月三日、憲法記念日、世間一般では連休初日である。一日である。しかし我々書道部の一年生にとっては、不安な一日が始まった。

まず昼の部が始まり、ハードなドッチボールである。夜の飲み会のこととも考えつつも、つついハッスルしてしまいます。先輩方もはりきっておられて、話によると、中村先輩は珍しいくらい張り切っておられたそうです。ドッチボールも終わり班ごとに分かれての昼食になった。自分の班は、ローンンでおにぎりなどを買って、楽しく昼食をとっていたが早くもここで、S・H先輩の言葉で、グリルビームの一気食いをやらされ、少々気持ち悪くなってしまう。昼食も終わり、ゲームが再開されました。午後はクイズ、その他などで徐々に盛り上がっていき、最後のゲーム、長縄跳びは、最高に盛り上がりました。どの班も逆転優勝を目指し必至に跳んでいました。その結果、私の班が大逆転優勝をはたし、おまけに私はMVP賞を授賞しました。

その後しばしの休憩のあと、バスで高砂へと向かった。一年生にとって、一番つらいときがやってきた。昼間はしやぎすぎたため、みんな疲れているようだ。いよいよ部屋に入り席につく。初めはビールと鍋料理で穏やかに事は進んでいたが、一年生紹介が始まると、日本酒が主体となってきた。それからOBの先輩をまわり、お酒をいただいで

いるうちに、早くも吐く者が出てきた。私も先輩につかまり、酒を飲まされていたが、顔にビニールをかぶって拒んでいた。しかし次第に気分が悪くなり、そのまま吐いてしまった。それからのことは全く覚えておらず、気付いた時には山下先輩の家においてそれから原田先輩の家につれていかれました。まあ、そんなこんなで無事におわり言い経験をしたと思えました。

学内展

二年 小田 桂子

「学内展について」との原稿依頼。私は頭を悩ませる。ううっ。何も覚えていない。何故なんだ。どうすればいいんだ。うわー。なーんて、行をかせいで……。

なんと言っても大変なのは作品づくりでしょう。一年生は初めてだし、二年生以上は、ブランドがあつてなかなか書けない。うおーっ、と叫んで筆を投げたくなることも、しばしば。ええ、学内展が始まると……あっ、眩しい一年生の姿が思い出されます。二年生にもなると、「先輩それ、正装ですか？」と、言われ……。さて、観客の来ない時の受付は、暇で死にそうです。そんなとき、一冊のノートにあれこれ書いたりするんですが、勝手に噂をつくられ困った人もいます。それから、差し入れのメロン何処へ消え去ったのでしょうか。と、まとまりのない文章ですが、学内展ダイジェストを終わります。

県展合宿

三年 牧 利弥

平成三年の夏休みに入っすぐの県展のための練習の仕上げとして、八月九日から十二日まで、福岡の街が一望できる油山の正覚寺で、県展合宿が行われた。スケジュールは、何も決められていない自由合宿で、福大生8名、福岡女子短大4名、中村大1名の県展入選を志すもの、計13名の参加で始まった。誰からも束縛されない、自由な時間何故かみんな黙々と練習に励んでいます。

この合宿での僕の目標は、「県展出品」という誰にでもできる簡単なことでした。が、市展ではあまりにも下手すぎて、出品を断念せざるをえなかった自分にとっては、大きな目標です。

毎日毎日書いた作品を赤木先生に見てもらおうと、予想通りの厳しい批評が始まり帰るときは、「だめだ、汚い、早い。」と言われたあの声が、いつも耳に残っていました。何枚書いても進歩が見えず、頭を痛めながらまた練習に励みました。そうして書きまくった県展合宿は終わりましたが、まだまだ出品のレベルには達せず、だめだの一言です。もうここまで来たらやれるだけやるしかありません。メ切を過ぎて、また五日間、夏休みの半分を棒に振り、お盆返上で書きつづけました。結局、赤木先生は儉約することを勧められて、非常に落ちこんであきらめかけていましたが、OBの満生先輩から「これは通るかもしれんぜ。」と、おだてられると、調子にのりやすい僕は目をぎらぎら

と輝かせて、出品を決意しました。

その時、自分にとって結果などはどうでもよく、ただ、目標を達成したという充実感と、やっと夏休みを迎えられるという開放感でいっぱいでした。

入部して今まで、我武者羅に練習してきましたが、ここまでやったのは初めてです。そうして出来た作品は、「生涯僕にとって宝となるであろう。」と言っているほど、思い出に残る一枚の作品を造ることができました。

そうして、県展入選のしらせが入ったのは、夏季合宿中二日目、八月三十一日の夜でした。・・・バンザーイ。

夏季合宿

二年 大倉 隆雄

今年も八月三十日から九月三日まで、宮地嶽神社において、四泊五日の「書き込み合宿」である夏季合宿が行われた。今年は昨年と違って涼しかったのでとても過ごしやすかった。

この合宿では、書技の向上を第一の目標とし、寝食を共にすることによって、部員相互の親睦融和をはかることを目標としていた。しかし、今年で二回目の夏季合宿参加の自分にとっては、昨年までとは違った意味を持っていた。班長ではなかったのですが、そういう気持ちを持って自分が班の中心となって動いていこうと思っていたからです。また、自分自身の行動に不十分であったにもかかわらず

班員全員を引っ張っていかうと思っていたのであるから、戸惑いや不安でいっぱいだった。

初日、二日目と、自分自身がどういう行動をすればよいのか分からずに、何も出来ないまま過ぎていった。

しかし夜の反省会で、「失敗を恐れずに思いっきりしろ」といわれて、自分なりに、一日一日、無我夢中で取組み、我武者羅に行動した。

練習においても、七隈祭の作品作りということで、毎日ずっと「六朝」ばかり書き続けた。鋭い線がなかなか書けず困っていたところで、今年卒業された先輩方が来られ、ご指導をいただいたき、出来るようになった。ところが、なかなか上達せずに、「もうこんなの書くのは嫌だ。」というふうに思い始めた。しかし、とのかく一つのこと集中していかうと考えて、書き続けた。

最終日の鑑賞会のときに、「うまくなったなあ。」と言われ。「ああ、ずっと書きつづけてよかった。」と思った。今後は、この夏季合宿で得た色々なことを、これからの普段の生活に、ぜひ取り入れて行動していきたいと思う。

七隈祭を終えて

一年 脇田 昇英

秋も去ろうかという肌寒い季節の中、十月三十一日から十一月四日まで、七隈祭が行われました。一年生が中心になってやったわけですが、問題が無かったわけではありま

せん。あるK君の場合ですが、市中パレードの準備のため家を提供したまではよかったです。作業のため、部屋は荒れ放題。この点はO君の場合も同様である。しかし、この二人のおかげで作業が順調に？進んで市中パレードを迎えることが出来たわけですから、この場をお借りして、深く感謝したいと思う次第であります。市中パレードの係の皆さんもお疲れ様でした。次にバザーを振り返ってみますと、係の人は、本当によく頑張っていました。何よりもフランクフルトと大学いもが予想以上かどうかはわかりませんが、おいしかったですし、売り上げの方も結構良かったです。で、総評としましては、よかったですということと終わらせて頂きます。最後に展示についてですが、私が未熟なせいもありまして、作品がどういこう言える立場ではありません。なので、作品に関することは、避けさせていただきます。しかし、展示そのものとしては様々な作品があって、なかなかよかったですと考えています。来年は今年以上の展示会にしたいものです。まあ簡単に七隈祭を振り返ったわけですが、無事、七隈祭の日程を終えることが出来ましたのも、皆さんのおかげだと思えます。本当にお疲れ様でした。

第三十一回西日本高等学校揮毫大会

三年 服部 大介

我部の最大行事である「第三十一回西日本高等学校揮毫大会」が、十一月二十四日、第一記念会堂で開催された。

今大会は、参加校26校、178名の参加をもって行われた。

この大会のために、役員、そして部員は、様々な活動を行ってくる。たった一日のためにである。この一日が部の最大行事の日となり、一年間の集大成の日となるからだ。また高校生にとってみれば、この一日のために試験前にもかかわらず、強化練習、また、日曜日を削って練習をつんでくる。自分の高校のため、そして何よりも自分自身の方を試すために・・・。

この十一月二十四日という日は、高校生にとっても、部そして部員にとっても、ものすごく大きな一日となるのである。この大会を終えた今、高校生は何を得ただろうか、また何を思っているだろうか。そして部員は何を・・・。自分が今言いたいことは、それぞれの部員に、揮毫大会を考えてもらいたい。大会を終えた今だからこそ考えてほしい。そうすればもっとよい大会が出来るのではないだろうか。もっと、高校生のためになるのではないだろうか。もっと部の、そして部員それぞれのためになるのではないだろうか。自分は数年後、いや、数十年後の大会が見てみたい。それは、いろんな思い出が今、心の中を駆け巡っているから。



一年間を振り返って

三十一年という時の流れによる大学生の気質の変化、それにしたがう書道部の変化が進む中、我々第三十一代役員は、書技向上、親睦融和、書道文化の普及という三つの目的のもと、大学における部の意義を改めて見直し、団体で目的を達成することの意義、尊さを特に重要視し、これらの行事を運営して参りました。

それぞれの行事に、それぞれの思いがあり、数々の失敗、苦惱、喜びなどを経験しながら、徐々にではありますが、着実に部員一人一人にその意義が浸透していったと確信しております。

しかしながら部員数の減少、伝統の継承といった点において、当初に我々が掲げた目標を十分に達成することが出来ず、それらの問題を解決することの難しさを痛感することも多々ありました。

これらの反省を踏まえて、我々三十一年代は、残された時間を、次代への引継ぎ、後輩の指導、そして自分たちの躍進の時間とし、部の発展のため努力していく所存であります。

最後に、一年間有難うございました。

第三十一代役員一同



みんなのひとりごと

人生は「偶然」の連続である。だから面白いのだ。
だからこそ、「偶然」を大切にしたい。

三年 中村 博

こんにちは。・・・・・・・・失礼します。

四年 肥村 豊子

一点に戻らんとする心あり
墨よりも黒きものは塗られぬ

一年 吉田 啓子

人生ようらに生きたいものだ

一年 白井 和宏

過去よりも、未来を大切にしたい

三年 原田 慎太郎

人の見ていないところでも

きちんとできる人間になりたい。

四年 入江 睦博

親しき中にも礼儀あり。

二年 亀元 美奈子

今日こそは、今日こそはと思いつつ今日もだめ。

一年 島 幸輝

聞くは一時の恥。聞かぬは一生の恥。

一年 山本 哲治

ここが幸せであるように・・・。

四年 上村 俊英

人生楽ありや苦もあるさ

二年 大倉 隆雄

ポーンとできる日が

1日でもいいから欲しい今日この頃です。

三年 川波 久美子

工藤です。ヨロシク。うーんシンプル。

一年 工藤 大行

この道を行けばどうなるものか危ぶむ無かれ。
危ぶめば道はなし。踏み出せばその一足が道となる。
迷わずにゆけよ、ゆけばわかる。

三年 山下 泰史

D i e w v o u s a s s i s t e !

一年 脇田 昇英

明日は失敗の無い新しい日。

二年 坂井 喜久代

天草は長崎県じゃない。

一年 松元 恵美

雨が降っている・・・。

涸れ果てた大地が再び活動を開始する。

・・・そして僕はバイトが休みだ。

三年 渡辺 太郎

夢に向かって努力できる「力」を信じます。

一年 森山 清二

風に飛ばされた葉は、しばしば鳥のように見える。

三年 服部 大介

今日も悟空 明日も悟空 あさってはねる

四年 磧本 孝洋

何も考えず、ボーっとしているときって、結構幸せかもしれない。

一年 鶴田 恵子

子供のように、まっ白な心を持った大人になりたい。

二年 小田 桂子

私の好きな言葉。
L'amour est un dialogue
de sourds.

二年 細川 文子

はーるよこい。 はーやくこい。

四年 宇野 環

えらい、よだきー。えらいきちー。

一年 野口 益記

私、頑張るもん。幸せになるからね。

三年 山村 陽子

冬来たりなば、春遠からじ。

三年 福島 幸治

福岡大学、そして書道部で過ごした四年間は、有意義なものとなるでしょうね。

四年 加藤 初美

忘却・・・もったいない。

一年 森 美和子

あつという間の四年間。

たくさん思いで出来ました。

四年 江川 美和子

呉下ノ阿蒙ニアラズ。

一年 安武 淳

いいじゃないか いいじゃないか

二年 中山 美津子

自分が全力投球したけっかであれば、
人の評価も、虚心にひらける。

三年 牧 利弥

一年、春。雨、中止。秋、揮毫大会。

二年、春。不参加、準優勝。秋、二回戦敗退。

三年、春。一回戦敗退(いきなり生研)。

秋、不参加。準優勝。

四年、春。雨、中止。秋、揮毫大会。

学文ソフトがしたいために入部したのに・・・何故？

四年 堂脇 裕志

色気より食い気。

一年 古江 秀美

どこでもドアが欲しい！通学時間、二時間強。

一年 中江 寛行

神出鬼没。針小棒大。

百鬼夜行。一蓮托生。

一年 真庭 陽子

方言丸出万歳

一年 西 慶二郎

嫌な雨。嫌な試験。早く来い来い夏休み。

三年 平田 光子

パートナー募集中。

一年 尹 信子

スマートに軽い。したたかに旨い。

一年 高良 俊彦

苦しい時こそ笑える人間でありたい。

二年 佐々木 智子

私はスガオ君とまおちゃんが好きです。

四年 泉 直美

私は現在、生きてて楽しいです。

一年 河野 綾子

1992 わたしの今年のテーマはもちろん「色気」

四年 原口 磨美

ヨロシク。

一年 亀川 聖史

人生は、ハマをするほど面白い。

二年 中村 友理子

反省するところに新しい計画が生まれ、
新しい行動が生まれる。

三年 立石 成美

この世を照らす光あれば
この世を斬る影があると知る。

・・・・・天魔覆滅
談、真一「影の軍団」より

四年 森 裕之

未来に焦がれ 過去を懐かしみ
現在を貴び生かす書道部であれ。

三年 安永 格



書道道具研究

1 紙について

今私たちが使っている紙は大半が「初春」という紙である。初春は練習用の紙であるので練習するのはいいが展示会などに出すには少し落ちる。元來紙にはいろいろな種類があり多種多様の性質がある。

例えば墨がにじんだりにじまなかつたりする。だから自分の作品にあつた紙を選ぶことによつてさらに作品が引き立つのである。ここでは紙の中でも代表的な単宣、夾宣、玉版箋、羅紋宣紙、唐紙について調べてみよう。

a・単宣

単宣というのは一枚漉の薄い宣紙（中国でつくられる紙）という意味である。日本ではこの単宣が一番よく使われている。特徴としては微妙なニュアンスで墨はよくにじむし、澆墨の良さも一番である。墨ののりぐあいもよく、淡い墨は、柔らかく澄んできれいだし、濃い墨はまったりと潤んで美しく宿る。しかし単宣は非常に薄くて柔らかい紙なので書くときに細心の注意を必要とする。

b・夾宣

単宣を二枚重ねてあると思えばよい。夾ははさむという意味で、だから夾宣がむいていよう。濃墨をもって、どかんと豪快にやっても破れたりはいしな

紙の上で、筆がどれだけ暴れても、平気なのである。しかしそれだけに、単宣のように多感とは言えないにじみはにぶいし、墨色や微妙な筆の動きへの反応も、鈍感といえよう。

c・玉版箋

玉版箋は厚いうえにロールがかかっているの、単宣のように鮮烈なにじみはない。だからにじみをおさえ、濃墨の美しさを出そうとおもったり、水墨画にはふさわしい紙である。

d・羅紋宣紙

手漉の紙は、どろどろの繊維を、廉ですくいあげてつくられる。廉には竹で作ったのや茅で作ったのがあつて、その「め」にも粗いのや細いのがあつて、このめは、このめは紙が乾いてからでも紙の肌にくるのである。乾いた廉の残影はちようど羅（うすすぎぬのあや模様）のようにみえて美しい。羅紋宣紙というのは、そんな模様に見える肌の宣紙といふ意味である。この紙はとても薄く、らもんをもつがゆえに繊維のからみようが一様でないの、墨のにじみは今・気まぐれだ又澆墨もあまりさえない。

d・唐紙

唐紙は竹の繊維で造られた紙のことでその中には一番唐紙、二番唐紙、白唐紙などがある。これらの唐紙はあまり上等ではなく、くすんだ黄色のざらざ

らした一番唐紙は、きめは粗いし、さげやすい。少し肌のなめらかな二番唐紙と少しちがうようだ。これを白くさらしたのが、白唐紙である。唐紙は、墨をよく吹い、枯れた線が引けるので、そのおもしろさを好む人もいる。

以上が紙の種類である。これを参考にしてこれからはさくひんをつくるときには、紙の種類も作品に合うのを選んで書いてみるとよいでしょう。

2 筆について

「弘法筆を選ばず」という言葉があります。これは、熊筆家は筆の善悪にかかわらず意の儘（まま）の作品を作ることが出来るという様に解されています。しかし史実によれば、空海は帰朝におり、唐より筆工を伴うなど筆に対して並々ならぬ感心があったとされています。名人にしてかくの如しでありますから、われわれのような初心者などは、言わずもがなであります。

先に述べたからも、筆を選ぶ際は筆の大小と共に、書風までを考慮に入れることが大事であると思われまます。また用途により

短鋒	写経用	楷書用
中鋒	楷書用	行書用
	かな用	草書用
長鋒	行書用	草書用
		かな用

に大別できます。

次に筆をおろす場合ですが、ほとんどの筆の穂先は、ふのりで固めてあります。したがって硯の上で押しつぶしたりすると、穂の付け根をゆるめてしまふ恐れがありますので筆をおろす際は、指で穂先をていねいにつみほぐし、水かぬるま湯でのりを洗いおとせばいいでしょう。

使ったあとの筆は、よく水で洗い墨をおとし、毛流をととのえ穂先をそろえ、乾かしてやります。この時、穂先の水分をよく切っておかないと穂先に水分がたまってしまう、穂先がぐらついてしまうことになりまます。

筆はその手入の如何によって、耐久力に数倍の差があり、書き味にも格段の違いがでてきます。普段から手入を怠らない筆に対する愛情をもつことが、書の上達の第一歩ではないでしょうか。

3 墨について

墨と言われてもピンと来る事が無い人がほとんどだと思います。そんな墨についていきなり、造ってみることとはできないのかと大胆な発想を持ってみました。

墨は炭素の粒子から出来ていて、化学をかじった人なら聞き覚えのあることでしょう。この粒子がすすであり、すすをひっかけて固めて

いるのが膠（にかわ）である。膠は匂いがひどいで墨には香料が混ぜられている。これらのすす・膠・香料の生成から墨は造られている。

a・すすを採る

すすというのは、煙突や口ウソクから立ち昇る煙や煙突の中にたまった黒いやつのことである。このすすにも種類があり、油煙からすすをとる油すす墨と松からとれる松煙墨の二つが主流である。すすは、灯心の油が燃えて炎の先から立ち昇る煙を、カンブリと呼ぶふたで受けとめ、すすをカンブリに付着させて採るこのカンブリというのは、屋根の棟にのせる半円形の瓦のことである。実際に我々か作るとしたら、この辺であきらめることになるでしょう。さきに宋の詩人蘇しよくが、松煙墨を作ろうとして山火事を起こしたこともあるそうだ。また、この松煙からのすす採りは四百キログラムの割木を焚いて採れるすすがたったの十グラムそこそなのである。

b・膠について

膠とは接着剤のことであり、これはタンパク質の一種だ。膠には次の四つの働きがある。(一)ばらばらのすすを膠が固くひっかける。(二)形ある墨は、膠の粘性によって生まれる。(三)墨を磨ったとき、墨の粘りを醸成し、紙・板・布・などに浸透付着させる。(四)紙や板、布などにあらわれる墨の色に、艶や光や透明感を誘う。というようなことがある。

c・墨の香り

さきほども述べたように、膠の悪臭を消すために、墨には香料が入っている。唐のころには、天然で動物性の香料でか香が、動物性の香料としては龍腦がもっとも珍重された。といってもよくわからないだろうが、これがあの独特の匂いの元祖なのである。その後いろいろ複雑な香が好まれ始めたが、現在では当時の香に近ずけた合成龍腦や人造か香などが使われ、墨特有の香を保ち続けている。

d・練り

すす・膠・香料は、この「練り」が始まるときにやつと顔を合わせることになる。ふつうすす六百―七百グラムと膠百二十―百四十グラムがのせられ練りが始まる。ゆるゆると液状の膠をませながら、かきまぜと揉みを繰り返していく。このころ磨は大寒であり十一月から始まり四月の始めまでの間である。これは膠の性がその季でないと機嫌が悪いのである。なんてわがままなことだ。このように練り揉みしていく日本流とは異なる中国流は杵でもって墨をつくそうである。

e・型入れ

次の作業は梨の木で作られた型にいれプレスすることである。このはめぐあいでも墨の質は大きく左右されることになる。ここで、型にいれる前の墨は、人間の体温ぐらいが一番機嫌よく、股ぐらであたためながらプレスされていく。なんと墨の誕生は人肌のぬく

もりからなのである。ここで墨にも魂が込められていく、そんな気がしないでもない。あとは乾燥してしまえばおしまいである。こんな長い過程を経て造られた墨、自分で造ろうなんてとんでもない話である。道具一つ一つを改めて見直すともまた違った書の楽しみかたがでてきます。墨一本にも愛情を込めてみては、それが書技向上につながるかも。

4 硯について

硯の命は、その鋒ぼうのよしあしと、磨り心地によつて決まります。磨り心地とは、走りまわる墨の肌を、硯がどれほど心地よく吸いつけるかということです。ほとんど力を入れずに磨つていても、よい硯というのは墨を吸いつけて墨がよくおけるものです。但し、最初から磨り心地のよい硯というのは、そうあるものではありません。磨りに磨り、使い込むうちに、磨り心地をふかめていくのです。よく使いたまれた古く上等な硯になると、彫刻された石の肌は、潤うを含み、人肌のようなぬくもりを感じさせるようになるのです。それでは硯の手入についてですが、まず第一に、硯を使用した後は、必ず硯を洗うことです。墨を貯めたままにしておくと、硯のほうほうに墨がたまってしまう。墨には膠が入っており、墨汁が固まってしまい、ほうほうの谷間を埋めてしまうのです。すると、墨を磨つてもおり

が悪くなってしまう。硯は洗わないと、よい墨色がでなくなりません。そして、時折、砥石をかけてやる事が、硯をいたわる最低の所作です。また、硯を新しく購入した際は、使いはじめの前に、硯の斤を砥石で研いでやります。砥石を使い、墨を磨るのとおなじように、水をたらしながらゆつくりと研いでやるのです。それからゆつくりと研いでやるのです。それから、水で洗い乾かせばよいのでしよう。硯には、材質、形、産地によって、さまざまな名で呼ばれています。それでは、いくつか例をあげて、紹介したいと思います。

a 材質

石硯 瓦硯 陶硯 鉄硯 漆硯 銅硯

b 形

長方硯 円硯 楕円硯 斧様硯 風字硯

鐘様硯 自然硯 (天然硯)

c 産地

中国 端溪硯 (広東省) 五台山石硯 (山西省)

建州石硯 (福建省) 魯硯 (山東省)

日本 雨畑硯 (山梨県) 龍溪硯 (長野県)

赤間硯 (山口県)

最後に硯を購入する際ですが、その硯の姿や目新しさにとらわれず、どこの石で作られているのを判断の基準にすべきです。それから、硯は二・三年で、使いきってしまうということはありませんので多少高くても質の高いものを買った方がよいでしょう。

自由投稿

通学

一年 野口 益記

大学に入学して、僕には、約二時間という長い通学が待っていた。

一日の始まりは、午前六時に始まる。朝食を食べるので、早く起きている。朝食を食べないなら、ぎりぎりまで寝ているだろう。

午前七時に家を出発し、西鉄電車の金島「かねしま」という駅へいく。この駅を知らない人がほとんどだろう。駅まで自転車です約七分。二十分ぐらい電車に乗って、宮の陣という駅で、急行に乗り換えである。この駅も知らない人は知らないだろう。この駅からが大変なのである。電車がホームに入ってきてドアが開くと、そこには人が今にもあふれそうなおまじいではないけれど、それに近いものがある。その中に入っていくのだから、これがないへん、たいへん。なるべくドア付近を避けて、吊り革が空いているところを狙うのが、コツである。なぜなら、福岡までに、四つの駅に停車するので、ドア付近にいと、その駅で吐き出されてしまうからである。宮の陣から約四十分、たつて寝られるくらいの満員電車にのって、福岡に到着する。やっと福岡に着いたと思ったら、つぎは福大までバス。これがまた人が多い。座りたいために、一つ前のバス亭から乗っている。しかし、最近そのバス亭か

ら乗っても座れなくなってきた。福大までバスで約四十分の距離だ。毎日、こんなふうなので、一時間目の講義は、疲れて寝ているときもある。いかに、通学が大変かが、自分でもよく分かる。

来年は、できたらアパートでも借りたいと思っている。仮に、アパートを借りたとしても、住所は……には、教えないと思う。なぜなら、……からである。

『車』中心の生活

二年 佐々木 智子

私は一年生の夏休みから自動車学校へ通い、十二月二十七日に念願の免許証を手にした。それから一月に車を購入し、私と車との出会いが始まったのである。うちの部の半分以上の人は、私の車に乗ったことがあるだろう。最初に乗った人は、二年の中山美津子さん。彼女は私が運転して三日目にもかかわらず油山へ行こうと言いつ出した。その時はもちろんだが、二年の同輩を乗せると私の車はカラオケボックスになる。みんなが知らない二年の実態を私は知っている。また、私は運転が下手なのに寝た人は数多い。私が唯一我慢できるのは、危険直前で危険を防ぐことが出来ること。私の来るまで恐怖体験をした人もまた数多い。西女に行くとき、宗像のミスターマックスの前で起きた事件は今から考えてもゾツとする。衝突ってこういうときに起きるんだなって反省する良い機会

でした。事故はないけれど、白バイに捕まったことがある。五月五日、山口県へドライブに行つたとき、関門トンネルを抜けてすぐ一旦不停止で笛を吹かれてしまった。しかし白バイの人はすごく優しい人で、「今日はどこまで行かれるんですか。気をつけて下さいね。」とか言われて、白バイの人でも優しい人がいるんだなと嬉しい気持ちになった。私は車に乗りはじめて、山口・北九州・長崎・佐賀と遊びまわり、色々な感動を得ることが出来た。海に何回行つただろう。警察を見て何回ヒヤつとした思いをしただろう。もうすぐ夏休みに入る。今年是一年生と一緒に遊びまわりたい。今から待ち遠しい。

(私からこのことを聞いていなければ、数日後に同じ所を通つた二年の大倉君は、おそらく私と同じ運命をたどつていたであろう。)

連盟の三回生及び短大卒業生レディースコンパ

三年 平田 光子

学内展の最終日、後片づけを終え音楽の夕べのメルパルクールから長浜公園へと向かつた。連盟の三回生の女子そして今春卒業した同期の短大生の方たちでコンパが行われたのである。約二十名ほど集まり、公園の前の「村さ来」で開かれた。まずこのコンパの企画・幹事の九大の秦さんより挨拶があり乾杯が行われ次々にでてくる料理へと箸を進めた。さすが

女の子であるだけに飲むより食べるということでもかなりお皿の方もきれいに片づいていた。しかし女の子といえど、やはり好きな方もいて、水割り、ビール、日本酒と注文が飛びかっていた。

久しぶりに会う人も多くていろんな話で盛り上がり、最後にお店の方が記念として写真をとって下さって、一時会はおわり。

そして二次会はカラオケ。仕事や電車などの都合で何人か帰った人もいるけど、それでも14〜15名はいた。ギンギンに乗りのいい曲からしんみりと聞かせる曲まで幅広く、振り付きの人、歌ってる人の横で踊りまくる人、様々で、異様に盛り上がりとても楽しかった。

連盟行事とは別にこのような企画というか機会は初めてだったので、どのようなものだろうと考えていたけれど思っていた以上に打ち解けてきて良かったなと思えるコンパだった。誰かの一声でこれだけの人が集まってこのようにしてコンパが開かれるほど仲がいいことを、そして、書道部であるということに誇りに思っています！とある人が話していたが私もまさしくそう思った。そして、この日集まったみんなと同期で良かったなと新たに思いました。

早いもので、もう四年。本当に「もう四年」である。一時時期は毛氈から足を踏み外した自分も、今ここにいます。

つい最近まで、木村先輩に奇襲攻撃を受け、内野さんに睨まれたと思ったら、あのすばらしき先輩方はもういない。これからは学生として会うことはない。社会人は厳しいからなあ……。

ところで、部員として振り返り最近よく思うことがある。自分が部に入っていないなかったら……ということである。うちの部は、一年よりも二年、二年よりも三年、と充実感を増すことが出来る何かがあった。それは、人によって異なる事だと思いが、確かに充実感を得ることが出来る場だと思ふ。そして誰もがそういう場だと思ふのではと、考えるのである。四年間は早い。だから、毎日毎日を自分というものをさらけ出して思いっきりやる、という気持がすごく大事だと思う。時間は、アツという間に過ぎるからネー。

全然話は変わるが、最近自分がホモだというウワサが流れている。だがしかし、卒業までに「健康ツアー」を企画、いやう時間も遅いし、今度ある企業面談のための履歴を書かないとヤバイから、又、次回のお楽しみということで……

六月末日 深夜

大学へ行ったら、バイトをしてお金をためて、たくさん遊ぼうと思っていた。でも気付けば、筆を持って正座をして、字を書いている。入学前は書道をしようなんて絶対思わなかったし、部活というきつそうなものではなく、周一回ぐらいの楽なサークルに入ろうと思っていた。

入部して3ヵ月たった今、練習はきついですが、やっぱり部活に入ってよかったですかと思ふ。今年の一年生は約20人いる。みんな個性があって、私は見ているだけで楽しい。

今までもいろいろな行事があったが、やっぱり新入生歓迎コンパが印象的である。昼の部と夜の部があった。昼の部は野外活動で、ドッチボール、障害物競争、クイズ、フルーツバスケット、なわとびなど、お日様がキラキラしている中、ハードなものばかりであった。私のチームは、ジャン先輩・小田先輩・森先輩・高良君のベストメンバーだったので、もちろん優勝をいただいた。

夜の部へ移る前に、一年生は牛乳を飲んでた。やはり疲れた時は牛乳であろう。夜は、OBの先輩方もたくさん来られていた。一年生紹介が終って、皆、OBの先輩に挨拶回りや、先輩回りをしていた。途中でダウンするものが続出してた。私は冷静にそれを見守っていた（つもりだが違うかもしれない）。

これからいろんな行事があるので楽しめるようにしたい。

私の友達

二年 坂井 喜久代

小学校三年生に上るとき、その子は特別クラスから編入されてきました。その子は知能障害児でいわゆる知恵遅れの子でした。もうあまり記憶はさだかではありませんが、いつにまにか友達になり「きくちゃん」と言って親つてくれるようになりました。そして小学校三年生のときから中学校三年生の時まで、同じクラスで共に学び遊び時には励ましあい、厳しくしかり成長しました。そして私はいろいろなことを教えたつもりです。その時のことを少しづつ思いだしながら書いてみます。

小学校の頃、やはりその友達は普通の子供なら出来るあたりまえの事が少し出来なかつた気がします。あいさつをすること、「ありがとう」「ごめんなさい」を言うこと、バスに乗ること、人の眼を見てはなすこと、手紙を書くこと、人があまり迷惑をかけないことなどです。掛け算、九九が言えたので、一緒に言ったり、漢字を覚えるのが好きだったので、よく漢字を教えてもらったりしました。中学校に入ると、先生達の取り計らいによって、わざと同じクラスのように少しわがままでしたから時には叱りました。体育のバレーボールの時には二人で練習をし、美術や家庭科はよく残っていました。音楽の時にはふえの吹き方を教えました。いくつも教えたことを書き並べましたが、何も教えたことばかりではありません。私とその友達に教えられたことというのは、う

まく書けません、教えることの素晴らしさ難しさでした。中学校を卒業して以来あまり会う機会もありませんが、きつと元気にやってくれていると思います。最後になりますが、私がまだ教員になるのをあきらめきれずにいるのは、この友達と一緒に成長した七年間があるからなのでしょう。か。

ある日思ったこと

三年 渡辺 太郎

その日は、歩いて行くことにした。理由は、私のバイクの故障にあったのだが、たまにはそういうのもよからう。

私は朝に弱い。したがって、家を出るころには、もう十二時をまわろうとしていた。外出の準備をすませた私は、軽く食事をしたあと、一息ついてから家を出た。

空は晴れていた。まだ夏の暑さの残る秋とよぶには早い頃だった。

家を出てしばらくすると川が見える。子供のころは、よくここで遊んだ。川の中には、サワガニや、アブラバヤのような小魚がたくさんいて、それを捕まえてきては、テン普拉にしてくれと、母にねだったものだ。

この川に沿って少し下ると、神社が見える。この神社、縁むすびの神社らしいが、私が見たのは高校生になってである。特に深い意味は無いのであるが、私には、この縁むすびの神社というのが信じられず、インチキではないかと今も、疑っている。

私は、神社の境内を通過して行くことにした。

小学校の夏休みには、ここがラジオ体操の場所になっていた。そしてここに、大きな楠の木があって、クワガタや、カブトムシが、たくさんいた。私たちは、体操もせず、クワガタ捕りに夢中になっていた。楠の木は、今も昔と変わらず、そこに立ち、威張ったように枝を広げていた。

私はそこで立ち止まり、その大きな楠の木を見ながら思った。「駅まで歩くのきついよなー。」そして私は、家からわずか300mの所で家路についた。

・・・ある、学校に行かなかった日の事である。

「What color is character?」

カノッサの屈辱編

四年 泉 直美

皆さん、私の研究室へようこそ。

今回は、「色color」について勉強していきましょう。色は数え切れないほどたくさんあります。ところが色には、我々が気づかない性格の秘密が隠されているのです。

そこで、「色による性格判断」を実際に見てみましょう。次の色の中で一番好きな色を選んで下さい。(スペースの都合上、原色のみ)

赤・・・強い欲望と活動意欲を持つ積極的な人物です。また、刺激を求め、生活上の冒険に身を投じる外向型でもあります。BUT、自分の失敗を他人のせいにして非難する傾向がある

ので周りに気を配るよう注意しましょう。

青・・・平穩で調和のとれた生活を好み、誠実で落ちつきのある人物です。しっかりしていて信頼される友人になれる反面、自己中心的で利己的になる傾向があるので、ものの言い方に用心しましょう。

緑・・・安定、均衡および忍耐を示し、情趣味は優れています。また社交性の礼儀に敏感な気質を持っています。そのため自分の評判や他人のスキヤンダルを気にしすぎる傾向があるようです。

黄・・・新しいもの、広がりゆく未来を示す黄色を好む人は知的で理想主義的で想像力に富んでいます。また、福祉や社会の将来について純粹な関心を持っています。BUT、信念が深いため、他人の考え方に我慢出来ない事があるようです。もっと寛大になりましょう。

紫・・・芸術的才能に恵まれ、その上感受性が強く、観察力に優れています。現実より空想の世界を好むせいか、行動は気まぐれで一貫性が無く、煮えきらないところがあります。それ故に周りの人々から理解を得るには時間がかかるでしょう。

茶・・・茶色好きは、落ち着いた信頼のおける人柄を示します。義務感が強いので、それにつけ込まれ、嫌になることもあります。また、お金を管理する才能と抜け目なさを兼ねてきています。

黒・・・黒が好き人は現在の環境に大変不満を持っています。抑圧を感じ、物事をそのまま受け入れることが出来ません。そして尊大な態度で世間に認めてもらおうとしています。

灰色……自分自身を世間から隠したいという気持を持っていて、かわりあいになることを好まず、気軽さと静けさを求めています。

もうすでに人生の戦いに疲れ、平和な生活を送りたいと思っているかもしれません。

以上8色について分析してみました。いかがでしたでしょうか。色について少しでも理解していただければ、幸いに思います。

それでは皆さん、またこの研究室でお会いしましょう。

現在、福岡大学に在籍しているわけ、

を、自分なりに考えた文

一年 工藤 大行

四月吉日。春といえど、まだ幾分肌寒さの残る日だった。田んぼに立つかかしのようにかよわく、しかし、かいわれ大根のような「ピリリ」とした気持を胸に抱き学内を歩いていた私は、勧誘週間最終日、書道部にひっぱり・いや、導かれその説明を聞くこととあいなつたわけである。そこで牧さんの細く右30度から誘う眼、きらびやかな煩から発するパワー、そして「書道部はこんなにおいしい部だ。」という活動体制を聞き、大学生のアバンチュールを楽しもうと企んでいた私は、こうして入部した次第である。

さて、入部した当時の私と言えば、書道部から湧いてくるそのイメージと、今までの体育会系からの180度転換など

が交わり、部の活動にそう積極的に参加する気になれなかった。そんな部や、夜の献立をなにするかといった悩みに、12時間の睡眠が8時間ほどに減り、長く辛い夜が続いた。バイトの疲れで足をつった夜もあった。天国が地獄と化す一瞬である。どうでもいいが……。

そんなこんなで一月、二月経った。字は上手くなったとはいえないが、筆の握りは覚えたり、「少しでも上達しよう」「部活も車の中で眠ったりせずに出よう」と思えるようになった。これも先輩方のおかげだと思う。(ウーン、世間を知ってるね僕も。)

講義、部活、バイトなど色々やる事はあるけれど、一日、一週間、一年間、大学生活を振り返って毎日を身のつまみものにしたと思う。

最後になるが、この文を読んでもくれた人に感謝したいと思う。あいかわらずサンマがうまい。というわけで終りたと思う。支離滅裂。あーあよだきかった。 FIN

(提供・ロート製薬 一九九一・七・一)

Le petit chapitre rouge

二年 細川 文字

「赤ずきん」という童話は、ほとんどの方が知っていると思いますが、日本の子供向けの絵本で紹介されているのは、おばあさんと赤ずきんちゃんの二人を食べた狼が、大いびきで寝込んでいるところに、狩人が通りかかり、家の

中に入ると狼がベッドで寝ている。狩人は狼の腹をささみで切り裂くと、赤ずきんちゃんが飛び出し、次におばあさんが狼の腹から出てくる。そこで、寝込んでいた狼の腹に石を詰め込む。狼は眼を覚ますと、逃げようとするが、腹の石が重くすぐ倒れて死んでしまったという結末です。このハッピーエンドの結末は、ドイツの十九世紀初めの「グリム童話集」や、グリム童話を日本流に直した絵本に見られます。

一方、フランスでは、赤ずきんちゃんは、森の中で狼に出会い、尋ねられるまま行き先を教え、自分は途中で花をつんだりして寄り道をする。先回りした狼はベッドに寝ていたおばあさんを食べ、おばあさんに成り済ましてベッドに横たわった。やがてやって来た赤ずきんちゃんは家の中へ入り「おばあちゃん、なんて大きな耳をしているの?」「よく聞こえるようにだよ。」「なんて大きな歯をしているの?」「お前を食べるためにだよ。」「狼はこう言う」と赤ずきんちゃんを食べてしまったという残酷な結末です。これは、フランスの、十七世紀のペローの「童話集」の中にあるお話です。

ペローという作者名は、日本ではあまり知られていないかもしれませんが、彼の童話は、「眠れる森の美女」「シンデレラ姫」「長靴をはいた猫」などがあるのですが、これらはすべて、日本ではグリム童話を通じて入ってきたので、ペローの名はかすんでしまい、「赤ずきん」の場合のように、グリムの改作により、ペローのものと大きく異なってしまったのです。

おわり

今思っていること 秋の夜長編

四年 森 裕之

最近よく耳にする「ファジー」という言葉があるが、電気製品などによく見られる機能で「適当な」と解されていると思う。しかし、現代の生活環境全てにおいて、「ファジー」と称されるものが多くなっていると思う。私達の学生生活においても同様で、とかく「最近の学生は・・・」とよく耳にするように「適当な」というよりもむしろ「曖昧」という訳が適しているのではないかと思う。

私も人生最初で最後の就職活動を体験したわけであるが、その中で痛感したことは、企業は学力よりも人物を重視している、つまり学生時代を如何に有意義に過ごしてきたかということであった。

私は、四年間、クラブで学んだ「やる気、元氣、根氣」の三本を前面に押し出し、結果として一応は名の通った企業に無事就職が決まり、私に対する評価も一応は良かったと考えられる。

もし、私があの時クラブを辞めていたらと考えることがあるが、何よりもまず、一つのことを続けられたという、意思の強さ、その中で学んだ人間関係（挨拶励行、上下関係等）そして数多くの思い出などを得ることが出来なかったのではないかと思う。

とにかく、声を大にして言いたいのは、書道部で学んだ四年間は、私の人生を大きく左右するものであり、一生の宝となり、最も輝いていた時期だったのでないだろうか。

書道部に入部したかぎりには「曖昧」な人間にならず、何か一つでも、少しでも多く、食欲に吸収する姿勢を持って、せめて四年になったときは私のように胸をはって、書道部に入部してよかった、と思える人間になって欲しい。私を成長させてくださった全ての方々、環境に心から感謝して終りたいと思う。

無題

一年 松元 恵美

新入生勧誘週間が終わっても、私はどのサークルに入るかまよっていました。まよいまよって、「ゴールデン・ウィークが終わってから入ろうと決心しました。

体育実技の時間、近くにいる人が、私の友人によく似ていたので、思わず声をかけてしまいました。それがMさんです。その時友達にならなかつたら、私は今、書道部に所属して良かったことになりました。

Mさんに、「部活おもしろい？」と何回も聞き、そのたびに、Mさんは「うん」と答えました。「じゃあ入ろう」と言て、部室に連れて行ってもらって、説明を聞かず、見学もせず、入部届を書きました。入ったその日は、表装の最終日で、何をしてよいのかわからないまま、その日が終わってしまいました。

入部した最初の頃は、部活にいくのに緊張していました。先輩の名前も覚えられずに、「いきたくないなあ」と思うこ

とがありました。部活がある日はMさんに「今日行くのと？行かなきゃいけない？」と聞いていたような気がします。

次第に部活にもなれて、先輩とも話せるようになって、部活に行くのも楽しくなり、自分からも行くようになってきました。

先輩方は、皆さん個性的で、練習中とそうでないときの差の大きさに、時々驚かされます。(驚きというか、おもしろいというか)

とりあえず「書道部に入って良かった」と思っているの、私の部活の選択は間違ってもいなかったのでしょうか。

無題

四年 江川 美和子

何を書いていいかわからず、今でも悩んでいるのですが・・・最近よく思うことを書いてみようかとおもいます。何かむなししい気もしますが、私の周りではどうも「若年寄り」の傾向があるんです。私自身、「年をとったなあ」と思うことがよくあります。では、ちよつとした一例を。

この大学に入学した頃は、私も十八才でした。そう、高校を卒業して、一人暮らし(ちよつと寮生活でしたが)に期待をしていたものです。ある時、先輩に言われた言葉、「まだ十代なんやねえ。」という言葉によくわからぬままうなずいていたものでした。あの時の先輩の気持が今ではよくわかります。学内を見ていて、みんな若いこと、かわいくて、元気で、思わず見つめながら考え込んでしまいま

す。「私達にもあんな時期があったのねえ」と。こういうことを考えるじたい・・・。

小さい事を挙げたらきりがありません。昔から好きなことですが、私は空き時間にペンチで、ひなたぼっこをするのが好きなんです。皆さんも一度は、経験したことありませんか。ポカポカとした日の中ですつても気持ちがいいものです。

ジュースよりもお茶、旅には温泉、お寺まわり、ちょっと渋めのコースですが、たまには気を休めて、いいのかもしれない。

何故かわかりませんが、肩がこりだしたのも事実です。仲間うちで、よくほぐし合っている今日この頃。何かちょっと悲しい気もしますが、その時を、ゆっくりと過ごせたらいいなと思っています。

皆さんもこういう自覚のないよう、いつまでも、気を若くして、充実した学生生活を送ってくださいね。見方を変えれば、一步一步大人になっているのかもしれないのですから。

願いが叶うとしたら

一年 安武 淳

先日、少年雑誌、「少年ジャンプ」の連載マンガ「ドラゴンボール」を愛読していたところ、3つの願いが叶うという場面が載ってあった。

皆さんは、もし願いが叶うとしたら、どんなことを叶えてもらおうでしょうか。広い土地、大きな家、カッコイイ車、ス

テキな恋人、美しい容貌、世界平和、書技の向上、その他いろいろあるでしょう。しかしぼくはチョットちがう。もしぼくの願いが叶うとしたら、まず、ぼくに少々欠けている「度胸をつけて欲しい」ということである。それもこの世で最も屈強な度胸である。そんな度胸があれば、あらゆる場面に遭遇しても焦らず堂々と物事を為すことができるでしょう。2番目の願いは「思いやりのある心」である。それも、この世で最も寛大な思いやりの心の持ち主になりたいのである。人は誰でも、自分にとっての損得を考えて行動しがちであるが、ぼくはそんな損得を考えず、どんな人にも奉仕の心を持って接していきたいのである。

3番目の願いは、「いつも楽しく、愉快な気持ちでいたい」ということである。いくらお金があっても、楽しくなければ意味が無い。いくら貧乏であっても、楽しくなければよいのである。

以上がぼくの願いであるが、こうしてみるとどこか宮沢賢治の詩の「雨ニモマケズ」に似ていて、なんか偉そうなことを書いてしまったような気がしてしまう。みなさんも一度こうして、願いをまとめてみてはいかがでしょうか。もしかしてあなたのもとにアラジンの魔法のランプの精が願いを叶えてくれるかも・・・。

どう思う

三年 中村 博

港には、様々な情報が溢れている。書店を覗くと、あらゆる本が所狭しと並べられ、我も我もとひしめき合っている。テレビでは、朝早くから夜中まで、多種多様な番組が流れている。正に、私たちは情報の渦の中で生活している。そして私たちは、必要なものだけを取り出すことが出来る。どう利用するかは本人次第である。お気に召すままどうぞってわけなのだ。

しかしここで用心しなくちゃいけない。その情報は必ずしも正しいとは限らないのである。送られてくる情報というのは、一方通行であり、ただ黙って受け取っているだけなのである。戦時下では、それは顕著に露になる。湾岸戦争を見れば明らかである。しかし、今は多くの情報を選ぶことが出来る。第二次大戦中は選ぶことも出来なかった。ただし幾つかの国では今もなお、選べないというのも現実である。

私たちは、接する情報を判断することは出来ない。ただ信じるよりほかならない。どうしても判断したいなら、実際に足を運び、眼で見て、触れて感じればよい。昔から、「百聞は一見ニシカズ」というではないか。

そういえば、某清涼飲料水に、甘さを抑えたものがある。このコマーションには、背中とお腹がくつききそうなスラリとした美人がたくさんでてくる。いかにもこれを飲めばスラリとなりそうな感じがする。しかし、いくら飲んだところでスラリとなるわけなどない。つまり嘘っぱちであるが、かま

わないのだ。しらけた真実よりも、気のきいた嘘もたまには必要なのではないだろうか。

ある作家は言った。

「三つの真実にまさる 一つのきれいな嘘を」
さて、君はどう思う？

「銃瘡の彼方に」

四年 上村 俊英

まるでTVゲームのようだ。

湾岸戦争開戦直後、第一波空襲から帰還した、多国籍軍のF15E戦闘爆撃機のパイロットの名言である。

ハイテク戦争・血を見ることのない戦争。戦争からも「リアルさ」が消え、世界は世紀末的要素を益々強めてゆく……

この街に来て、早や四年という歳月が流れようとしている。今までの自分を見つめなおし、とにかく何かを始めよう、そんな単純な動機で入部した私は、不肖ながら役員という大義を任せられ、実に貴重な、充実した体験を得ることができた。それは皆同じだろうが、私個人は特に、別々の意志を持つ他人という存在と始めて正面から取り組む絶好の機会だったことが自分にとって恩恵であったように思う。物事に真剣に取り組もうとする姿勢の乏しい人にとって「部活動」という存在はその人個人の一つのシーンにすぎない。その「シーン」に出会ったとき、人は必ず、最

終的には逃げ出すか、消費しきるか、そのどちらかを選択しなければならぬ。それは「システム内における儀式」である。そして私を含め、第三十代の五人は消費しきることを選択した。曖昧な人生と自己の価値観、そして精神に何らかの解答を求めて。そしてそれは取りも直さず「リアル」——システムの中で自らの真実を追い求め、戦っていくこと——であった。

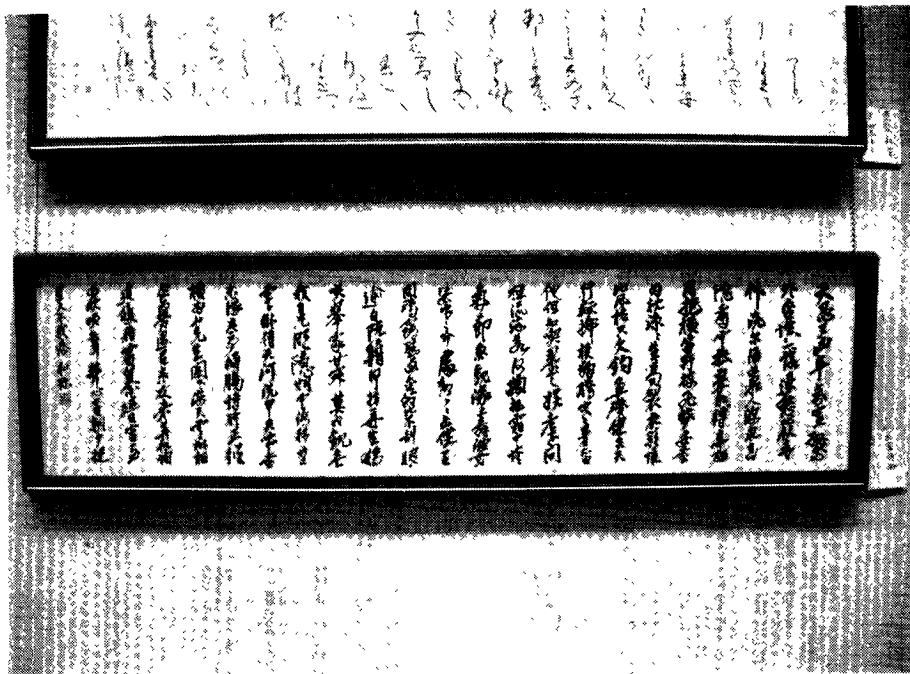
自分の人生を振り返ってみると、システムの中で翻弄され、(それに気付きもせず!)、血の匂いのないところばかりを逃げ回ってきたような気がする。そんな自分にとって、この四年間は、血の匂いのする、個人と個人のぶつかりあいであり、それまでの人生よりもずっとウエイトの高いものだった。ぶつかれば傷も負う。だが、肉体があるから、また立ち上がってゆける。それが「成長」していくことなのだ。そのことを身おもって感じられないかぎり、人に人らしさ、真実を見つめる力、しいては生きていくことを本当に自分のものにすることは難儀であろう。

「普通に」生きていくことの難しさ——社会生活を送る一個人として肝に命じておかなければならぬことを多少なりとも感じることできた私の四年間は無駄ではなかった。傷を負ってこそ得るもの——それが「幸福」である。

血を見ることの無い戦争など、あるわけが無い。それは、相手の痛みをわかることが出来ないものの傲慢さの表われでしかない。それでは、人と人とは永遠に、わかりあうことはないだろう。人としての業を背負ってこそ人は人足りえるのだから……。

・・・白い闇を切り裂いて飛んでゆく

孤独な銃弾たちへ・・・



福岡大学学術文化部会書道部

規 約

第一章 名称及び目的

第一条 本部は福岡大学学術文化部会書道部と称し、本学学生による書道愛好者の団体である。

第二条 本部は部員相互の親睦融和をはかり、人間形成を目指すと共に書道文化の普及、書技の向上を目的とする。

第三条 本部は前条目的を達成するために次の事業を行なう。

一、書道に関する事業

一、書道に関する調査並びに機関誌などの刊行

一、関係団体との親睦ならびに連絡提携

一、各種展示会出品

一、その他前条目的達成のため必要と認めたる事業

第二章 組 織

第四条 本部は講師及び部長各一名を置く。

第五条 本部は幹事、副幹事、会計、企画、庶務、渉外、その他必要とする役職を置き、本部を代表する。

第六条 本部は次の機関を置く。

一、役員 会

一、部員 総会

一、O・B会、但しO・B会規約は別に定める。

第三章 役員 会

第七条 役員会とは、部の円滑なる運営を期するための機関である。

第八条 本会は原則として、第五条に基づく役員によって構成される。但し、第五条に基づく役員以外であっても幹事が認められた場合には、本会に出席することが出来るが議決権はないものとする。

第九条 本会は幹事によって召集され代表される。

第十条 本会は毎月一回開くことを原則とする。

第十一条 本会の議決は、部員総会の決定を妨げるものではない。

第四章 部員 総会

第十二条 本会は本部の最高議決機関である。

第十三条 本会は本部の部員によりこれを構成する。

第十四条 本会は必要に応じこれを開き、幹事がこれを兼務する。

第十五条 本会の議長は原則として、幹事がこれを兼務する。

第十六条

一、本部会は部員の過半数をもって成立する。

一、本部会の議決は出席者の過半数の賛成を必要とし、可否同数の場合、幹事がこれを決定する。

但し、出席者の過半数の賛成で重要事項とし、その決定

には出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

第十七条 本部会不成立の際、出席者の三分の二以上の賛成をもって

仮議決することができる。但し、

一、仮議決については事後部員総会に於いて過半数の承認を必要とする。

一、重要事項は仮議決することはできない。

第五章 役員

第十八条 役員構成は第五条に同じ。

第十九条 第三条につき、外部関係諸団体へ役員を派遣することができる。

第二十条 幹事は本部を代表し、副幹事は幹事を補佐し、幹事に支障ある時はその職務を代行する。

第二十一条 本部の役員改選は選挙制にし、これを重要事項と認め部員の無記名投票による選挙を行う。

但し、委任状は認めるが、委任の方法は年度によって異っても良いものとする。

第二十二条 本部の役員の任期は四月一日より翌年三月三十一日までとする。

但し、役員改選後、翌年三月三十一日までは代行期間とし、その責任は新旧役員の連帯責任とする。
尚、欠員が生じた場合これを補充する。

第二十三条 役員改選は原則として十月に行なう。

第六章 役員の仕事

第二十四条 役員の仕事は次の通りである。

一、幹事は部務を処理し、部を統括する。

又、部の代表責任者であり、その責任を学術文化部会と部全体に負う。

一、副幹事は幹事を補佐し、幹事に支障ある時はその任務を代行する。又、福岡大学書道部OB会の事務を担当する。

一、会計は部費徴収並びに部費予算に関する収支の記録決算書を作成。

一、企画は第一章第二条に定められた本部の目的にそって諸活動を企画する。

一、庶務は本部の活動に必要な諸事務を行ない、資料の徴収保管をなし、機関誌の発行を行なう。

但し、機関誌の発行は年一回とする。

一、第五章第十九条に基づく役員は、本部関係諸団体との親睦融和を図り部の向上を目指す。

第七章 会計

第二十五条 本部の会計年度は四月一日より翌年三月三十一日までとする。

第二十六条 本部の部費及びその他の所定納入金については、前年度末に部会に於いて決定しなければならない。

第二十七条 会計報告は会計が行なう。又、部員の要求に応じて会計簿を公開し、年一回決算報告書を作成し、これを報告する。

第八章 部員の権利義務

第二十八条 本部の部員は次の権利を有する。

- 一、本部のあらゆる活動に参加し、人間形成の場として利用すること。

- 一、本部の役員総会に出席し、その議決に参加すること。

- 一、本部に於ける選挙権、被選挙権を有する。

- 一、本部の備品及び図書を利用すること。

第二十九条 本部の部員は次の義務を負う。

- 一、部員は部員総会に出席すること。

但し、やむなく欠席する者は事前に欠席届を幹事に提出しなければならぬ。

- 一、部員は部員その他の所定納入金を定期に納入すること。

- 一、本部の規約に従うこと。

第九章 入部・退部

第三十条 本部の入部は年度始め募集することを原則とし、学文会登録及び入部金納入をもって部員とする。

第三十一条 本部の退部は書面をもって幹事に願ひ出て、役員会の承認を得、部員に通達する。

但し、退部を希望する者は、その在籍期間までの所定の納入金を完納する

第三十二条 書道を研究する熱意なく本部の名譽を汚したる者、部活動を理由なくして一ヶ月以上怠った者。又、部の秩序を乱す者は部より除名する。

但し、欠席届出者についてはこの限りではない。

第十一条 規約改正

第三十三条 本部規約改正の発議は部員総会に於いて部員の四分の一の

同意により総会の議決を経て行なわれる。

尚、改正においては、本部員の三分の二以上の出席を必要とし、その出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

附 則

附 一 本規約は、昭和三十五年より実施、昭和四十五年四月一日

改正。

第十章 罰 則

福岡大学書心会

規 約

第一章 総 則

第一条 本会は福岡大学書道部書心会と称する。

第二条 本会は事務局（本部）を福岡大学書道部に置く。

第三条 本会は支部を置くことができる。

第二章 目的及び事業

第四条 本会は会員相互の親睦を図り、書道文化の普及、向上に努めると共に福岡大学書道部の後援を行ないもって軌道に貢献する事を目的とする。

第五条 本会は前条目的達成の為次の事業を行なう。

- 一、書道の振興に関する事業
- 一、書道に関する研究物、機関誌等の刊行
- 一、関係諸団体との親睦及び連絡提携
- 一、各種展示会出品
- 一、其他前条目的達成の為必要と認めた事業

第三章 組 織

第六条 本会正会員は福岡大学書道部員として登録をなし卒業をした者をもって構成する。但し強制するものではない。

第七条 本会に総会、評議委員会、および事務局をおく。

第四章 役 員

第八条 本会は次の各号の役員を置く。

- 一、会長（一名）
- 一、副会長（若干名）
- 一、評議委員長（一名）
- 一、副評議委員長（三名）
- 一、評議委員（原則として各代一名とする）
- 一、事務局次長（一名）
- 一、事務局委員（若干名）
- 一、会計監査委員（一名）

第五章 役員 の 職 務

第九条 本会の役員は次の職務を行なう。

- 一、会長は本会を統轄し、且つこれを代表する。
- 一、副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務

昭和五十六年一月一日

改正 昭和五十九年一月十六日

昭和六十一年一月一日

を代行する。

一、評議委員長は、評議委員会を統轄し、且つこれを代表する。

一、副評議委員長は、評議委員長を補佐し、評議委員長に事
故ある時はその職務を代行する。

一、評議委員は書心会の本会の運営、重要事項の審議および
決議にあたる。

一、事務局長は、事務局を統轄し、且つこれを代表する。

一、事務局次長は、事務局長を補佐し、事務局長に事故ある
時は、その職務を代行する。

一、事務局委員は、本会の企画・立案にあたる。

一、会計監査委員は、本会の会計監査にあたる。

第十條 役員任期は二年間とし、定例総会に於いて選考するもの
とする。

第六章 総 会

第十一條 総会は本会の最高決議機関である。

第十二條 書心会総会は会員をもって構成する。

第十三條 本会総会は次の各号の場合、書心会会長がこれを召集する。

一、定例総会（年一回）

一、会長が特に必要と認めた場合

一、評議委員会が必要と認めた場合

第十四條 本会総会は出席会員をもって成立する。

第十五條 本会決議は出席会員の過半数を必要とし、同数の場合は議

長がこれを決定する。

第十六條 本会総会議長は書心会会長がこれにあたる。

第七章 評議委員会

第十七條 本会の審議および決議機関として本委員会を置く。

第十八條 評議委員会は評議委員、事務局長、および事務局次長をも
って構成する。

第十九條 評議委員は次の各号の場合、評議委員長がこれを召集する。

一、会長が必要と認めた場合

一、評議委員長が必要と認めた場合

第二十條 評議委員会の成立、並びに議決は書心会総会に準ずる。

第二十一條 評議委員会議長は評議委員長がこれにあたる。

第八章 事務局・会計

第二十二條 本会の執行機関として、本事務局を置く。

第二十三條 事務局内に事務室を置き、書道部役員より、事務室長を選
任する。

第二十四條 本会の会計年度は毎年一月一日より始まり、十二月三十一
日に終わる。

第二十五條 本会会費は総会に於いて決定する。

第二十六條 会計は監査を受け、総会においてその年度の会計報告を行
う。

第二十七條 会員は本会運営費用として毎年三月三十一日までに会費納
入の義務を負う。

第九章 入会及び退会

第二十八条 入会については、第十七条に該当するもので且つ、本人の申し出によるものとする。

第二十九条 本会をやむをえぬ事情の為、退会する場合は書面をもってすみやかに申し出る事。

第三十条 本会を退会し、再入会の申し出があった場合、評議委員会の承認を得た者について入会を認める事がある。

第三十一条 本会で本会の名譽を毀損し、また会員としての体面を汚し、もしくは不都合な行為があった場合、総会の決議により退会を命ず。

第三十二条 二年間会費を滞納したものに於いては退会を命ず。

第三十三条 本会規約の改正は評議委員会の審議を経て総会出席者の三分の二以上の賛成を得なければならない。

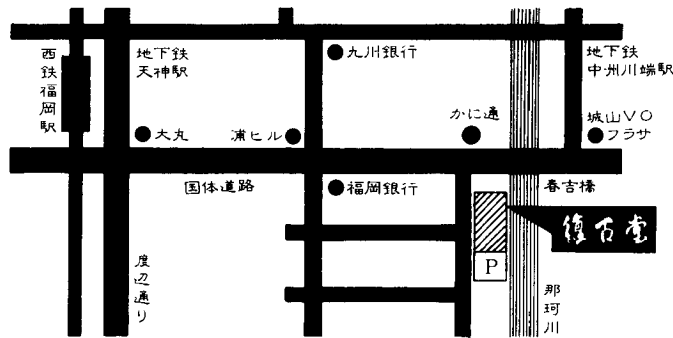
第十一章 附 則

第三十四条 本規約は、昭和五十九年一月十六日から施行する。

●アトリメニュー

書画用筆墨硯紙・香
色紙・短冊・料紙
和文具・書籍
額・表装・貸額
搬入出引受

赤ちゃん筆、御用命承ります



—— 駐車場完備 ——

大丸デパートより徒歩5分

電話予約・お問い合わせ 092-761-5122(代)

SINCE 1501・室町文龜元年創業



平助筆 復古堂

〒810 福岡市中央区春吉3-3-9 TEL 092-761-5122代 FAX 092-761-8367

広島のお好焼

下北沢

七隈四角バス停前

TEL 871-8620 (お持帰りできます。)

まごころ100パーセント！



有限
会社

七隈不動産

福岡市城南区片江5丁目1-45-110
(小松ヶ丘バス停前)

TEL (092) 801-7790(代)
ハ イ ナ ナ ク マ

散髪するならココ

HAIR SALON

YANAGIDA

Tel 0942(34)2125

Address 久留米市東町391

煙草・牛乳・菓子・その他

福大前メインショップ

城南区片江5丁目45-15



和漢文房舗

硯 山

〒810 福岡市中央区天神3丁目5番23号


電話 (092) 721-1644 (代表)

BANKŌ-DO

美術表装・ギャラリー

晚香堂

〒810 福岡市中央区大濠1丁目3-5(福岡気象台ヨコ)

☎(092)741-0897 アリ

●晚香堂は100年以上の伝統をもつ美術表装の専門店です

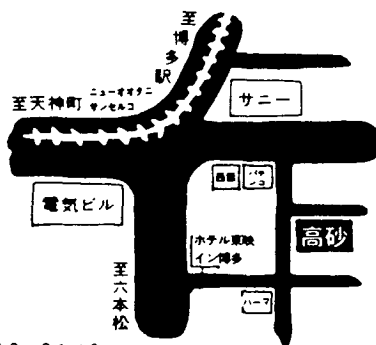
●お気に入りの書画に合うお裂をご自分の目で選んでいただきます

●営業時間:

AM10:00 ~ PM9:00

焼肉レストラン
ソウワル
京成ガーデン

城南区七隈 7-5-31 TEL 865-8555



大小宴会、コンパ、ご商談等にお気軽にご利用下さい。
 〒810 福岡市中央区高砂1丁目4-14 TEL(531) 3500・0140



ファミリーレストラン

営業時間 ● AM11:00-PM10:30(平日)
 ● AM10:00-PM10:30(日・祝日)
 ● TEL 861-7272



ゴルフ

営業時間 ● AM10:00-PM10:30(平日)
 ● AM 8:00-PM10:00(日・祝日)
 ● TEL 864-1161



ボウリング

営業時間 ● AM10:00-PM12:00(平日・祝日)
 ● AM10:00-PM1:00(土・祝日)
 ● TEL 861-5525



バッティングセンター

営業時間 ● AM10:00-PM11:00
 ● TEL 863-5560



文化サークル

営業時間 ● AM10:00-PM 9:00
 ● TEL 863-5535



アイススケート

営業時間 ● AM11:00-PM9:00(平日)
 ● AM 9:00-PM9:00(日・祝日)
 ● TEL 861-1025

七隈ファミリープラザ

〒814-04 福岡市城南区七隈8丁目4番8号(福大横) TEL(861)5555
 結核センター 梅光園バッティングセンター TEL (731)2791

トータルインテリアのプロフェッショナル GSグループ
 GSクロス GSフロアカバーリング GSガーデン

株式
 会社

GSタカハシ

福岡市中央区天神 2-10-10

TEL 福岡 741-3231
 781-7170

筆・墨・硯・紙・書籍

(株) 平助筆 復古堂

福岡市中央区春吉3丁目3街区9号
TEL(761)5122・(761)0884



HITACHI

日立情報

日立情報システムズ

「システム部第一設計課

第27代卒 井上憲司」

Information System

中国支店 広島市中区鶴見町4-22前田建設工業広島ビル 〒730

TEL(082)247-0811

●A4ファイルサイズにビジネスソフトを
凝縮搭載

●シーンにあわせたプリンタ着脱式

●目にやさしい白黒液晶新採用

●ワードハルシリーズとの
互換性を実現

●3.5インチフロッピに加え、
拡張性の高いメモ리카ードにも対応



日立日本語ワードプロセッサ

標準価格 178,000円

おふくろの味 お持ち帰り寿し・弁当・丼物

花 す し 弁 当

愛好会会館北側 TEL 864-5348

☆時代を先取りする

新感覚のヘアサロン!!

HAIR SALON ^ウU・^エE・^ハHA

城南区片江5丁目3-14 (東七隈バス停横)

TEL 861-5892 (予約有り)



株式会社 NPC 商会

TOTAL GIFT STATION.....

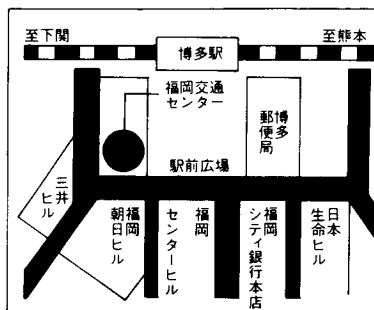
本社：〒812 福岡市博多区博多駅南1丁目9-11
電話 092(431)6161代表FAX 092(411)4212

熊本営業所：〒860 熊本市紺屋町2丁目45
電話 096(355)0095 FAX 096(354)4487



福岡店

〒812 福岡市博多区博多駅
中央街2番1号
福岡交通センター3F



☎ / 092 (451) 2127 (代)

★★★★★編集後記★★★★★

やっと機関誌「荒鷺」三十二号を発行することが出来ました。

この一年も色々なことがありました。楽しかったこと、苦しかったこと、熱中したこと……。部員の皆さんそれぞれにたくさんの思い出があるでしょう。この荒鷺がその思い出の一つ、また、その思い出の記録となり、またいつの日か皆さんがページを開くことがありましたら大変嬉しく思います。最後に本号「荒鷺」の発行にご協力いただきました関係者各位の方々に、部員一同感謝し、心より、厚く御礼申し上げます。

渡辺 太郎
福島 幸治

「荒鷺」

第三十二号

福岡大学学術文化部会書道部機関誌

平成四年三月 発行

発行責任者 安永 格

編集責任者 渡辺 太郎

発行所 福岡大学学術文化部会書道部

〒八二四一 福岡市城南区七隈八一十九一

電話 八七一〇四七二